

コラム ふたつの八角塔とラウンジ

三田キャンパスにある旧図書館は、慶應義塾創立 50 年の記念に建てられたもので現在は国の重要文化財に指定されています。そしてひと際美しい佇まいで見上げる者を和ませしてくれるのが、赤レンガの『八角塔』です。旧図書館のシンボルとして親しまれたその『八角塔』のちょうど真向かいにもうひとつの「八角塔」がひっそりと存在しています。

こちらは創立 125 年記念の新図書館建設の際に、旧図書館に対峙するように造られたものです。この新図書館の「八角塔」にあるラウンジは、今春より新聞や慶應関連の資料の展示コーナーに生まれ変わりました。国内外の 100 紙ほどの新聞原紙の最新版をゆったりとソファに腰かけて、あるいは大きなテーブルに広げて丹念に読むことができます。

最近は新聞を Web 上で読む人が多くなっていますが、たしかに Web 上だと検索に優れた力を発揮するので、瞬時に読みたい記事を探してくれるのが便利です。

しかし、書いたひと、刷ったひと、配達したひと、新聞パーに配架したひと、さまざまな人々の手を経た新聞原紙には微かなインクの匂いと、思いがけない記事を目にするのしみもあるようです。パソコンを抱えた学生たちがラウンジの新聞を熱心に開いているのが目立ちます。

ふと新聞から顔を上げると、8 枚のガラスをとおして四季折々の福澤公園の木々や、美しい旧図書館の『八角塔』が古の慶應義塾を追想させてくれるかもしれません …



佐藤 裕子